第１回佐久市商工業振興審議会　議事録

1. 会議概要

日時：令和8年（2026年）9月28日 9:30～10：50

場所：佐久市役所 本庁舎 8階会議室[1]

出席者：

【市側・事務局　６名】

柳田市長、木内経済部長、菊池商工振興長、渡邉工業振興・産業立地推進係長、重田課長補佐、木次工業振興・産業立地推進係

【審議会委員　出席１４名／欠席１名】

次第：

１　開　　会（進行　木内経済部長）

２　委嘱交付

３　市長あいさつ

４　委員紹介（自己紹介）

５　佐久市商工業振興条例について

事務局より説明。質疑・応答なし

６　正副会長選任について

互選により、会長に上條委員、副会長に坂川委員を選出

７　諮　　問

市長より、上條会長に諮問

８　議　　事（議長　上條会長）

（１）第三次佐久市産業振興ビジョンの策定について

資料１により、事務局より説明。意見・質疑なし

（２）佐久市健康長寿産業振興ビジョンの進捗評価について

資料２により、事務局より説明

【意見・質疑】

（委　員）

従業員数にも関わるかと思うが、佐久市の人口の動向というのはどのような状況になっているのか。

（事務局）

人口自体は、自然減の減少傾向ではあるが、社会増（移住されてくる方や仕事で来られる方）については増えており、県内でもトップクラスの状況となっている。

（会　長）

出る方も入る方も流動自体が多く、外部からの人材確保という観点、あるいは佐久の住みやすさの発信、大学等からのIターン・Uターン学生の定着誘導政策というのも重要になってくるということか。

（事務局）

そのような視点も重要になってくると思う。

（3）佐久市産業の現状と将来の方向性に関するアンケート調査結果（速報）について

資料３により、事務局より説明。

【意見・質疑】

（委　員）

地域特性を生かせる分野で「医療・福祉」が前回より数値が低下しているが、これは政策が日常に馴染んだためなのか、それともアプローチの難 しさによるものなのか。

（事務局）

関心としては上位であるが、DXやAIといったIT関連への関心が高まったことで相対的に下がっている面もあるかと思う。

（委　員）

補足する。地元企業が医療機器開発分野へ進出しようとした際、薬事法等の法規制のハードルが非常に高かったという現実があった。そのため現在は、医療機器そのものではなく「医療現場の困りごとを解決するモノづくり（非医療機器・ヘルスケア）」へのアプローチに転換しており、そうしたハードルの高さが数値に反映していると思う。

（委　員）

IT・AIに関して、地域内でAI関連産業そのものが増えているのか、それとも人手不足を補うツールの活用として関心が高いのか、どのように分析しているか。

（事務局）

市内に情報系企業もあるが、実態としては製造業等の中小企業が人手不足を補うための利用・活用事例が増えている印象である。一方で「どう活用していいか分からない」という企業も多く、支援が必要と考えている。

また、佐久市は冷涼で気候条件が良いためデータセンター設置などの打診もあるが、高圧電源や冷却等のインフラ制約があり、簡単には進まない現状もある。

（委　員）

アンケートを見ると、人材確保が最重要課題であるが、企業側は人手不足解

消に向けてどのような具体的戦略を考えているのか。

（事務局）

求人難は全国的課題であるが、佐久市としてはタイミーとの連携協定（隙間バイト活用）や、市役所と複数企業がまとまって行う2泊3日の「官民合同インターンシップ」などを実施しており、好評を得ている。単一の施策ではなく多角的に取り組んでいきたい。

他にも、長野県と連携した「奨学金返済支援制度」の導入・補助や、女性も働きやすい環境を整える「ジェンダーギャップ解消事業」など、短・中・長期の施策を展開している。

（委　員）

企業の経営者と話しをすると、採用（確保）の前に「いかに若手の離職を防ぐか」が非常に大きな課題になっている。社内の組織風土改革や職場環境の改善が重要である。

（委　員）

学生の就職動向を見ると、大企業だから行くというわけではなく「自分の自己実現につながるか」で選んでいる。地元中小企業は自社の技術や働きがいについて、学生への「見せ方・伝え方」を工夫することが重要である

（委　員）

佐久市は教育環境が良く社会増（移住者）が多い街である。首都圏の仕事をリモートで行う移住家族において、配偶者やパートナーが地元佐久の企業で就労できるよう、企業の魅力を「見える化」して伝える準備をしておくことが大切だと思う。

（委　員）

２点ある。１点目は佐久産業支援センター等との連携強化である。２点目として、最低賃金の引き上げや人件費上昇が利益率の低い中小事業者の経営を強く圧迫している。これは非常に深刻な課題であるのでビジョンにも明確に位置付けてほしい。

（委　員）

奨学金返済支援制度は佐久地域での利用率が県内でも高いのだが、規模の小さい企業などは制度設計のマンパワーが足りないという課題もある。県と市の制度をミックスして使いやすくする支援が必要である。

（委　員）

中込などで単独で移住・創業される事業者が増えており大変歓迎しているが、商店街組織や区（自治会）に入らず、ゴミ問題や駐車場等で地域摩擦が生じることがある。民間同士の交渉では感情的になることもあるため、市で一定のルールづくりや調整役を行ってほしい。

（会　長）

行政に全てを任せるのは難しいが、相互理解や共同イベントなど、地域と事業者が繋がる仕掛けやルール化は大切である。

（4）その他

（委　員）

長野県内は男女の役職格差や「ガラスの天井」を感じている若手女性社員が多いのが現状である。どのようなキャリアを積めるのか、可能性を広げて話せる場やキャリアパスの提示が必要だと感じている。

（会　長）

大学でも女性教員比率目標値達成に向け取り組んでいるが課題も多い。是正に向けたモデルケース作りが重要である。

（事務局）

今後の予定について伝達。

9　閉　会